

Paradigm®

Founder

S E R I E S

取扱説明書



PARADIGM、PARADIGM REFERENCE COLLECTION、Founder、および関連するすべての専有および特許デザインと技術は、Paradigm Electronics Inc.の登録商標です。著作権© Paradigm Electronics Inc. すべての権利は留保されています。その他の商標は、それぞれの所有者に帰属します。パラダイム・エレクトロニクスは、設計上の改良に伴い、仕様や機能を予告なく変更する権利を有します。

paradigm.com



Paradigm Electronics Inc.
205 Annagem Boulevard,
Mississauga, ON, Canada L5T 2V1

目次

はじめに	3	アンセム・ルーム・コレクション (ARC™)	
開梱手順 (フロア型スピーカー) ゴム脚 (床用)		(Founder 120Hのみ)	14
またはスパイク (カーペット用) の装着	4	ARC のメリット	14
一般的なヒント	5	ARC の手順	14
慣らし再生	5	ARC キットに含まれるもの	15
クリーニング	5	マイクの位置と接続	16
スピーカーの破損を防ぐために	5	ペアリング	16
アンプの歪みが第一の原因!	5	測定手順	18
パワフルなアンプはより安全	5	クイック・メジャー・スピーカー・	
ボリュームコントロール	5	ポジション・ヘルパー	18
限界があります!	6	ARC の基本的な測定手順	19
適切なパワーについて	6	上級者向けの機能	19
リスニングルームについて	6	スピーカーの接続	20
スタンドの取り付け (別売オプション)	7	最小ゲージ要件	20
バンパーパッドの取り付け	8	スピーカーの標準接続	21
ブックシェルフとセンタースピーカー	8	バイワイヤー接続	22
配置: フロント左右スピーカー	9	バイアンプ接続	23
正確な音色	10	水平ゾンタル・バイアンプ接続	24
バランスのとれた低音	11	パーティカル・バイアンプ接続	24
最適な音像定位	12	ファインチューニング	24
配置: センタースピーカー	13	基本的なトラブルシューティング	25
		仕様	26
		保証について	29

はじめに

この度は、Paradigm® Founder シリーズ・スピーカーをお買い上げいただきありがとうございます。あなたの音楽やホームシアターシステムのリスニング体験に驚くほどの違いを感じていただけると確信しています。

パラダイムは、総合的な研究開発、最先端の技術、最高級の素材の使用、洗練された製造・品質管理技術により、各構成部品や設計のあらゆる段階で、圧倒的に優れた性能を実現しています。Paradigm® Founder スピーカーは、あなたに比類のないリスニングの楽しみを末永く提供します。

このスピーカーの優れたサウンドを実現するためには、配置や操作に注意が必要です。このマニュアルをよく読んで、すべての指示に従ってください。ご不明な点がございましたら、Paradigm® 正規販売店にお問い合わせいただくか、日本国内総代理店である PDN のウェブサイト pdn.co.jp をご覧ください。

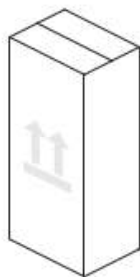
開梱手順（フロア型スピーカー）



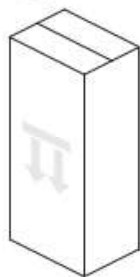
重要
以下の手順に従ってください！



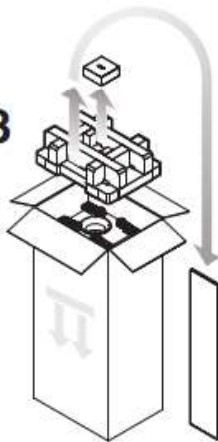
1



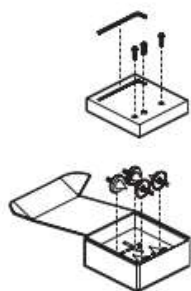
2



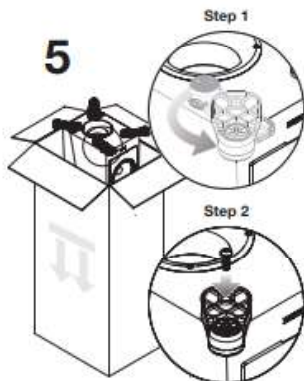
3



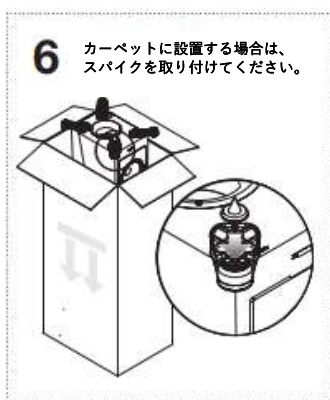
4



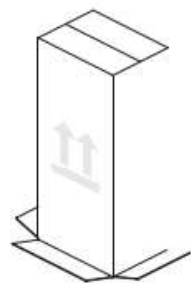
5



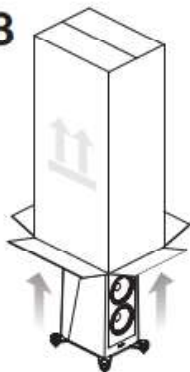
6



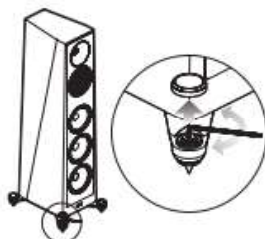
7



8



9



一般的なヒント

慣らし再生

Paradigm Founder スピーカーは、「箱から出した状態」でも良い音がしますが、「慣らし再生」をするとさらに良い音になります。厳密なリスニングを始める前に、数時間再生してみてください。

ご注意：寒冷地で輸送または保管されていたスピーカーは、使用前に室温に戻してください。

クリーニング

Founder のスピーカーは、耐久性のある高級仕上げが施されています。お手入れには、湿らせた柔らかい布を使用してください。強力なクリーナーや研磨剤の入ったクリーナーは使用しないでください。スピーカーシステムの一部を濡らさないようにしてください。濡れた物（コップ、鉢植えなど）をスピーカーの上に置かないでください。少量の水でも浸ると、スピーカーのエンクロージャーに永久的な損傷を与える場合があります。

スピーカーの損傷を防ぐために

Paradigm Founder スピーカーは能率が高く、中程度のアンプパワーで大音量のリスニングレベルまで駆動することができます。また、非常にパワフルなアンプの出力にも対応しています。スピーカーの損傷を防ぐために、接続する前に以下のガイドラインをお読みください。

アンプの歪みが第一の原因！

アンプの歪みは、スピーカーを破損させる最大の原因です。大音量で聴いていると、アンプがクリーンな電力を使い果たしてしまうことがあります。そして、アンプは定格出力の数倍の歪んだパワーを出し始めます。これでは、どのブランドのスピーカーもすぐに損傷してしまいます。（*お勧めのアンプについては、販売店にお尋ねください。*）

パワフルなアンプはより安全

40W/チャンネルのアンプは、40W を超えるとかなりの歪みが発生します。50 ワットまで駆動すると、このアンプは歪んだ電力を供給し、スピーカーにダメージを与えてしまいます。100W/チャンネルのアンプは、100W 以上ではかなりの歪みがありますが、100W 以下では歪みが非常に小さくなります。そのため、スピーカーが 50W を必要とするときには、より強力なアンプがクリーンなパワーを供給し、スピーカーの損傷が起りにくくなります。

ボリュームコントロール

レシーバー/プリアンプのボリュームコントロールに惑わされないでください。これはリスニングレベルを調整するだけで「パワー出力」のダイヤルではありません。ボリュームコントロールの設定で実際に使用されるアンプのパワーは、あなたが聴いている音楽の性質によって異なります。

特定のボリュームコントロールの設定では、静かな音楽の部分は、大音量の部分よりも少ないアンプパワーで済みます。典型的なポップ・ロック、ジャズ、大規模なクラシック音楽では、多くのレシーバー/アンプの定格出力パワーは、ボリュームコントロールが「11時から1時」の設定の間にあるときに到達することがよくあります（バス/トレブルおよびラウドネスを使用しない場合。使用時は、さらに低いボ

リュームコントロールで定格出力に達する可能性があります)。

すべてのアンプは、その定格出力を超えて動作させると、歪みが発生することを覚えておいてください。歪みはすべてのスピーカーにダメージを与えます。注意が必要です。大音量で聴く場合は、歪みが聴こえるポイントに注意してください。スピーカーの音が歪み始めたら、ボリュームコントロールを下げてください。このような損傷は不正使用とみなされ、保証の対象とはなりません。より大きな音量が必要な場合は、より強力なアンプをご用意ください。

限界があります！

よりパワフルなアンプは安全ですが、スピーカーが処理できる以上のパワーが入力される場合があります。その場合、スピーカーに負担がかかり、破損してしまいます。注意が必要です。大音量で聴くときは、バス/トレブルコントロールをゼロにして、ラウドネス/コンター/バス EQ ボタンをすべてオフにしてください（そうしないと、低いボリュームコントロール設定で定格出力に達してしまいます）。大音量で聴く場合は、ウーファーのストローク（コーンの動き）が目に見えて大きくなっていないか確認し、ボリュームコントロールを下げてください。

適切なパワーについて

推奨アンプ出力は、Paradigm Founder スピーカーのおおよその最小入力と最大入力を示す目安として記載されています。お使いのスピーカーの推奨アンプ出力を超えるアンプをお勧めします。出力に余裕があると、より良い音が得られます。ただし、注意が必要です。損傷を防ぐために、スピーカー最大入力の範囲内で使用してください（リスニングレベルは、ウーファーコーンに過度のストロークが発生するポイント以下にしてください）。

リスニングルームについて

Paradigm Founder スピーカーは、ご家庭の様々な環境で優れたハイエンドサウンドを提供できるように設計されています。しかし、リスニングルームの構造、寸法、家具などが、最終的に得られる音質に影響を与えることに注意する必要があります。リスニングルームは、スピーカーシステムの性能に独自の個性を与えます。スピーカーの配置に気を配ることで、より快適なリスニング環境を実現できます。配置を決めるときは、以下のガイドラインに留意してください。

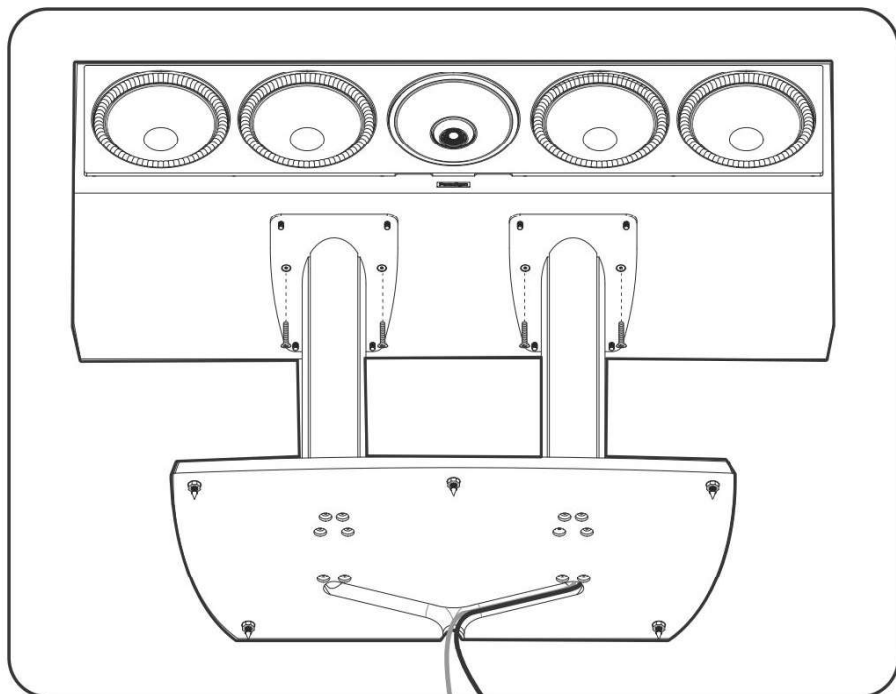
- 中高音域は、カーテン、カーペット、ソファ、壁掛けなど、部屋の中にあるソフトファニチャーの量に影響されます。このようなものが多いと、音がやや鈍くなります。同じ部屋でも、家具がない場合は全体的に明るい音になります。一般的な生活環境にある量のソフトファニチャーは、スピーカーをバランスよく鳴らすのに適した音響特性を持っています。

コンクリートの床や壁は、低域の定在波問題を悪化させる傾向があり、あまり好ましくありません。

高さ、幅、長さが同じくらいの部屋は、低域の定在波の問題が大きくなる可能性があるため、避けるべきです。その結果、明瞭度が低下する可能性があります。他に部屋がない場合は、スピーカーの配置を試して、音響の問題を最小限に抑えてください。

スタンドの取り付け (別売オプション)

センター・チャンネル・スピーカー「Paradigm Founder 90C」は、必要に応じてパラダイムの別売スタンド「J-18C V2」に取り付けることができます。詳しくは販売店にお尋ねください。



バンパーパッドの取り付け

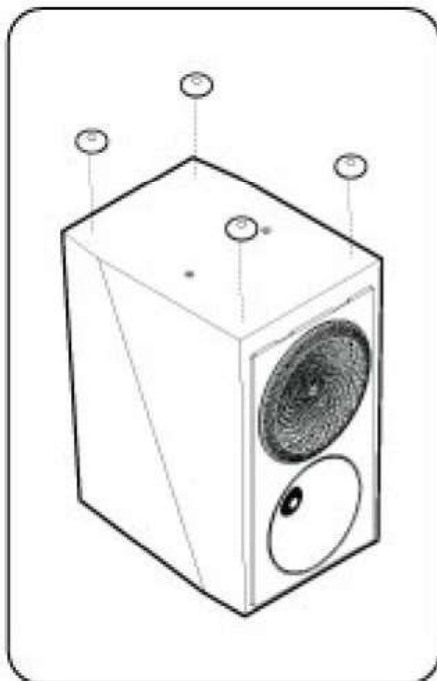


重要！スピーカーの仕上げが傷つくのを防ぐため、バンパーパッドを下側の角に貼る前に、スピーカーの上側を柔らかい場所（ラグや毛布など）に置いてください。

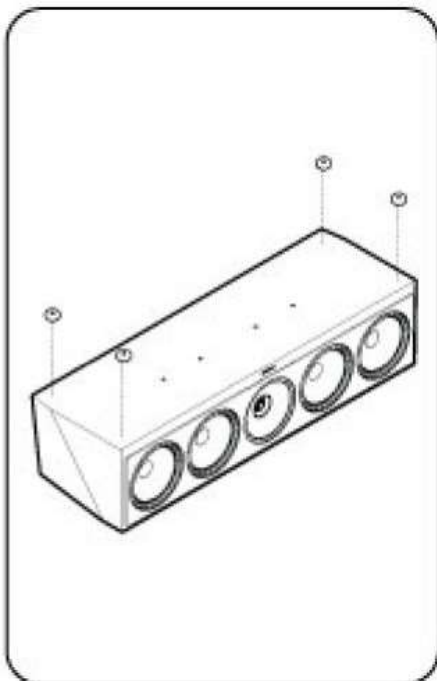
ブックシェルフとセンタースピーカー

Paradigm Founder ブックシェルフおよびセンターチャンネルスピーカー（下図参照）を棚などの平らな場所に置く際には、底面の角に粘着性のバンパーパッド（同梱）を貼り付けてください。これにより、スピーカーが平らな面から隔離され、全体的な音質が向上します。

ヒント：Paradigm Founder 40B ブックシェルフ・スピーカーは、Paradigm のスタンドを使ってスタンドマウントすることもできます。詳細については、販売店にお問い合わせください。



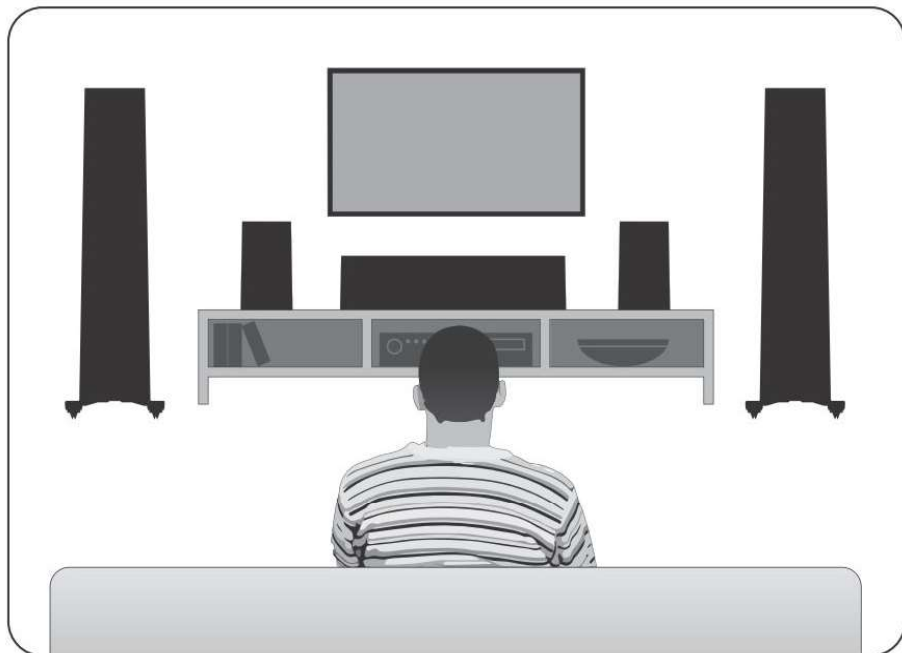
ブックシェルフ・スピーカー
(Founder 40B)



センター・チャンネル・スピーカー
(Founder 90C)

配置：フロント左右スピーカー

Paradigm Founder のフロントスピーカーは、リスニングルーム全体に非常に大きな音のウィンドウを提供しながら、柔軟に設置できるように設計されています。可能な限り最高のパフォーマンスを発揮させるために、以下のページの設置ガイドラインに従うことを強くお勧めします。

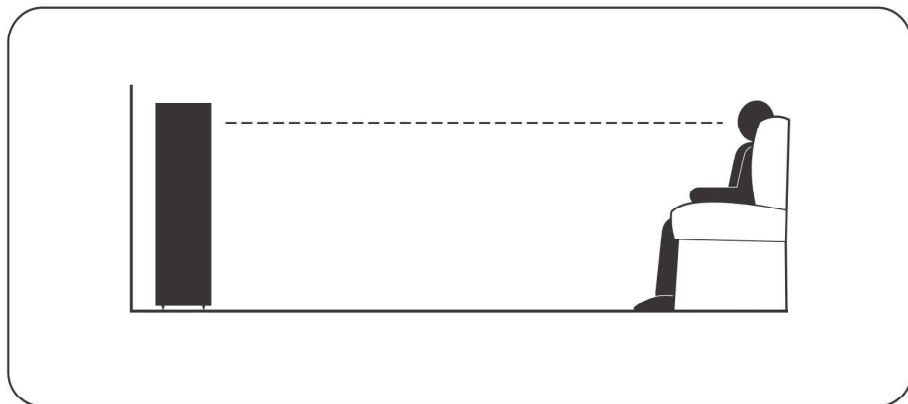


左右のスピーカーの理想的な配置

正確な音色

最も正確で自然な音色を得るためには、下図のようにフロントスピーカーの高域ドライバーが耳の高さと同様高さになるように配置します。

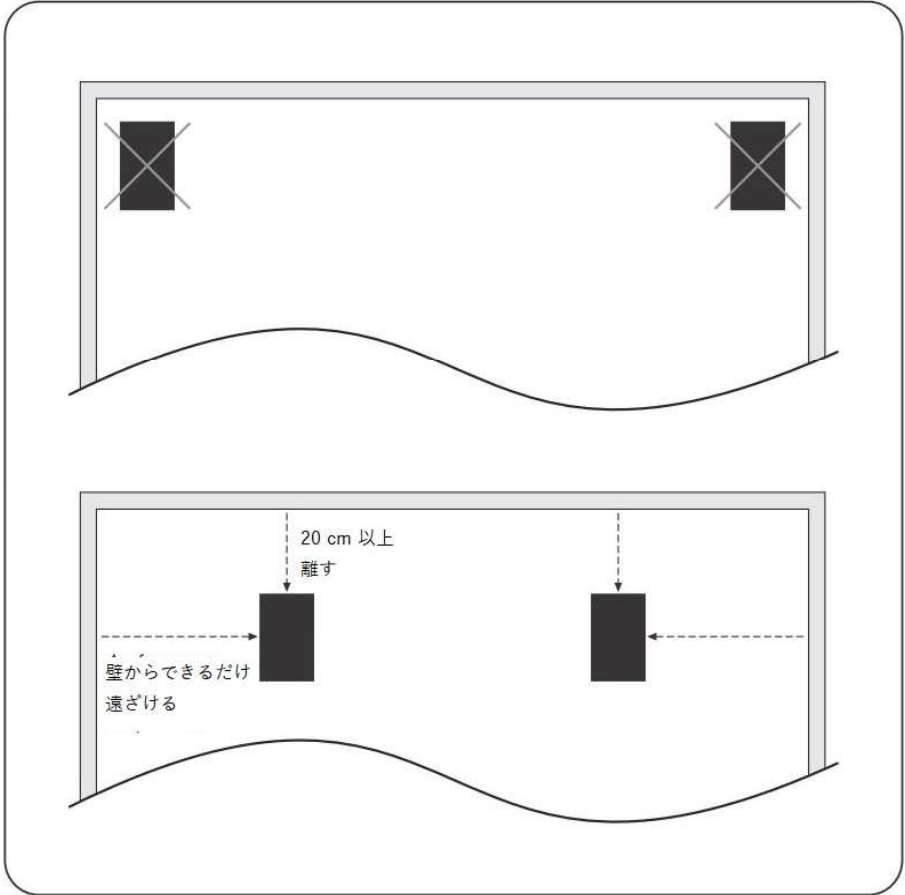
ブックシェルフ型は、パラダイムのスピーカースタンド（別売）や本棚に置くことで、高域ドライバーが耳の高さ程度になり、最高のパフォーマンスが得られます。



バランスのとれた低音

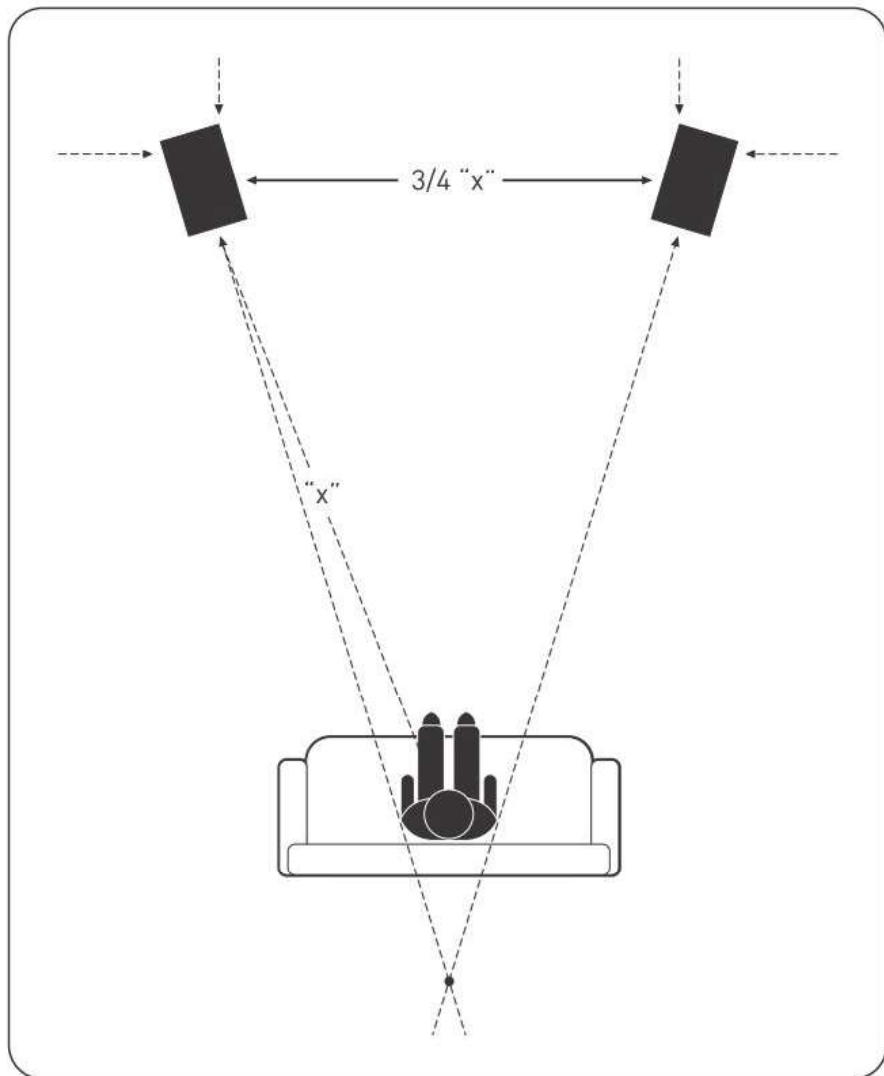
フロントスピーカーをコーナーに設置すると、低音が強調されすぎて全体的な透明感が損なわれます。角に置かないようにしましょう。フロントスピーカーは、下図のように、スピーカーの後ろの壁から 20cm 以上離し、両側の壁からもできるだけ離して設置してください。

これにより、低音のパフォーマンスが向上し、中音域の明瞭さが最適化されます。



最適な音像定位

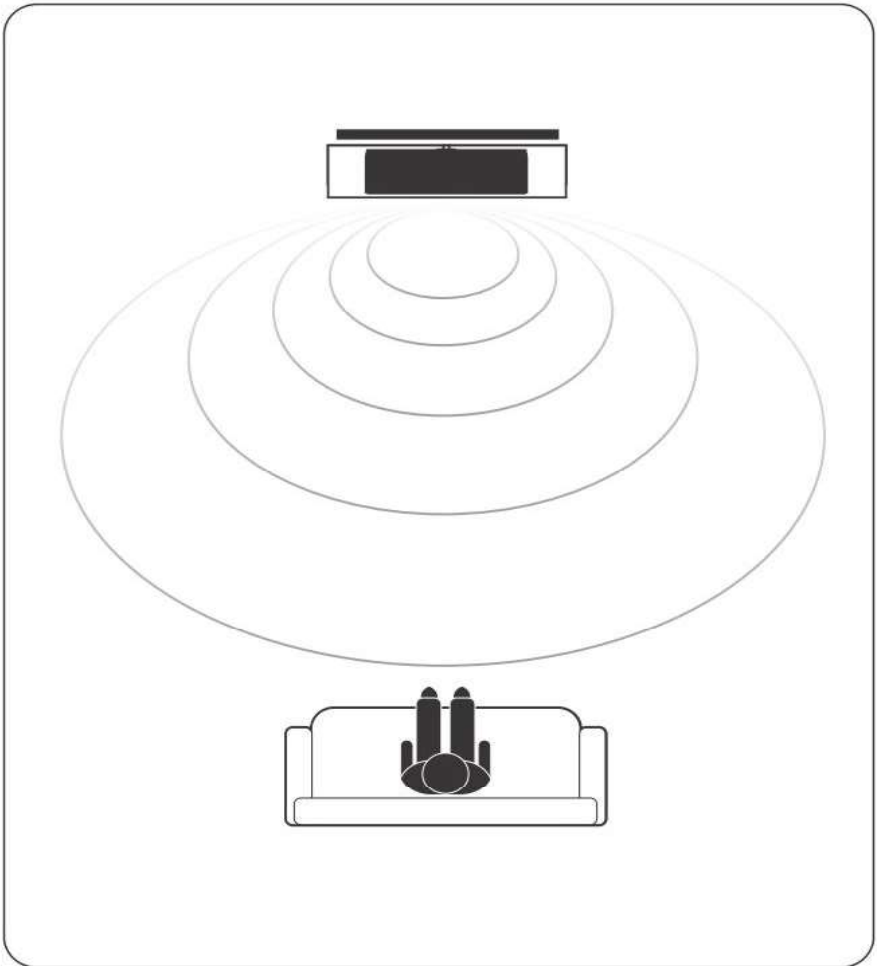
メインリスニングエリアからフロントスピーカーまでの長さを測ります (「X」)。最適な音像定位を得るためには、図のように、その長さの 4 分の 3 の位置に対となるスピーカーを配置します。音像定位をさらに最適化するためには、図のように、スピーカーを少し内振りにして、軸がリスニングポジションのすぐ後ろで交差するようにします。



配置：センタースピーカー

Paradigm Founder シリーズのセンターチャンネルスピーカーは、広いリスニングエリアをカバーするように設計されており、部屋中のリスナーがセンターチャンネルの情報をかたつてないほど明瞭に聴くことができます。

センターチャンネル・スピーカーをテレビの下（または上）に設置すると、最高の明瞭度が得られます。不要な音の反射を最小限に抑えるために、スピーカーをテレビやスピーカー棚の前面と同じ高さに設置してください。センターチャンネルは、リスニングポジションからフロントスピーカーとほぼ同じ距離にあることを確認してください。（A/V レシーバー/プロセッサの中には、距離の違いを電子的に調整できるものがあります。）



アンセム・ルーム・コレクション (ARC™) - Founder 120H のみ

部屋の問題を解決する真の科学的ソリューション

アンセム・ルーム・コレクション技術は独自のデジタル信号処理システムで、Founder 120H のパフォーマンスを部屋固有のパラメータに合わせて迅速かつ正確に最適化することができます。

部屋の音響特性を測定することで、ARC は様々な表面や定在波によるパフォーマンスを阻害する効果（反射、共鳴、定在波など）を補正するように機器を調整することができます。

ARC の使い方は簡単で、いくつかの簡単なステップを踏むだけで、Founder 120H をあなたのリスニングスペースにカスタマイズすることができます。ARC は洗練されており、現在利用可能なデジタルルームコレクション技術の中で最も正確で緻密なものの一つです。ARC は現在も開発が続けられており、定期的に進化し、最新版のアップデートがAnthemのウェブサイトからダウンロードできます。

ARC のメリット

ARC は、部屋の低音レスポンスを分析し、最適なサウンドを得るために適切なイコライゼーション・パラメーターを設定する、**最先端のルーム・コレクション・システム**です。ARC は低音域のレスポンスを改善し、シームレスなつながりを実現します。

コンピューターを活用した ARC はカスタムフィルター・トポロジーに加えて、超効率的な IIR (Infinite Impulse Response) フィルターを適用することで、遅延を最小限に抑え、処理ノイズを低減しています。このユニークな IIR とカスタム・フィルターの組み合わせにオーディオ・アーティファクトがすり抜けることができたとしても、それはまったく聴き取れないほど小さなものになるでしょう。ARC の効果はそれほど効果的です。

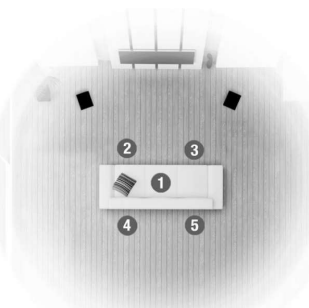
ARC では、マイクロホンによる複数の測定ポイントが必要です。ほとんどのルーム・イコライゼーションの手法は、「主要なリスニング・ポジション」で 1 回の測定を行い、1 つのポイント・ソースからのみ機能します。ARC では、「メイン測定位置」から始めて、ユーザーが選択した少なくとも 5 つの測定点（最大 10 箇所まで測定可能）から室内の応答を測定します。追加の測定位置は、最初の測定位置から最低でも 60cm 離れたところに対称的に配置されます（図参照）。このように複数の測定を行うことで、リスニングエリア全体で最適な低音性能を実現します。

他の「ルーム EQ」とは異なり、ARC はピーク（モード）とディップ（アンチモード）に補正をかけます。両方を補正することで、ARC はより正確で自然な部屋の応答を実現します。また、アンプへの負担を抑え、S/N 比を最大化するために、ARC はこの補正に適切な制限を設けています。

ARC は超高精度です！ 64 ビットの浮動小数点プロセッサが補正カーブの計算を行うため、一般的なルームコレクション・システムに見られる丸め誤差を最小限に抑えることができます。

ARC の手順

「部屋の補正」プロセスは、スピーカーから発生したテスト信号が ARC で校正されたマイクに拾われるところから始まります。次にシステムは周波数スイープを行い、問題となりそうなエリアをハイライトし、必要な調整を決定します。ARC の測定値がマイクに取り込まれ、接続された PC に保存されると、最適化されたソリューションが ARC によって計算され、スピーカーにアップロードされます。よりリアルで、より調和のとれた低音域のレスポンスの違いを実感していただけるはずです。



ARC キットに含まれるもの



- マイクロホンとマイククリップ
- 伸縮式マイクスタンドとベース
- USB ケーブル 2 本

始める前に

- お使いの ARC ソフトウェアとオーディオ機器に互換性があることを確認してください。最新のソフトウェアバージョンと最新の機器互換性リストは、anthemav.com/arc でご確認ください。
- ご使用のパソコンは、Windows 7、Mac OS 10.2 以降が必要です。ノートパソコンをお使いの場合は、ARC の手順が中断されないように、電源設定やバッテリー残量を確認してください。
- ARC の音響測定プロセスは典型的なバックグラウンドノイズを除去しますが、大きなノイズが存在する場合、ARC のプロセスに支障をきたす可能性があります。その場合、ARC は再測定が必要であることを示します。このような事態を避けるためには、測定中にテストする部屋が十分に静かであることを確認してください。

ARC ソフトウェアのインストール

- anthemav.com/arc から最新版のソフトウェアをデスクトップにダウンロードします。
- ダウンロードした.zip ファイルのフォルダーを右クリックして、デスクトップに解凍します。
- 解凍したフォルダーを開き、"Setup" をダブルクリックします。
- ソフトウェアのインストール方法が画面に表示されます。
- スタートメニューから ARC を「実行」します。

ARC アップデートをダウンロードする場合は、新しいバージョンをインストールする前に、既存の ARC プログラムがコンピューター上で終了していることを確認してください。

マイクの位置と接続



すべての測定において、マイクはまっすぐ上を向いていなければなりません。

マイクロホンの高さは、適切な測定に不可欠です。マイクは、座った状態で耳の高さに位置し、フロントスピーカーアレイの高周波ドライバーの高さと一致している必要があります。

マイクの位置が正しくないと、音が鈍くなったり明るくなったりすることがあります。高域ドライバーに合わせてマイクを座った状態の耳の高さに合わせて再調整し、ARC 測定を繰り返します。

マイクスタンドの長さを調整するには、まずクランプを反時計回りに回転させて緩めます。長さを調整してから、時計回りに

回転させてロックします。まずマイクを最初の位置に設定します。スイートーンの再生中はマイクの近くに立つてはいけません。そうしないと、体からの反射によって測定が不正確になる可能性があります。

ペアリング

Founder 120H スピーカーは、ペアでセットアップすることができます。2 台の Founder 120H スピーカーをペアにすると、Bluetooth により両方のスピーカーに同時に接続し、USB 接続で ARC を実行することができます。

すべての Founder 120H スピーカーは、工場出荷時には「左」のスピーカーとして出荷され、自動的に「右」のスピーカーとのペアリングが行われます。120H のペアで ARC を動作させるには、片方を「右」のスピーカーとして設定する必要があります。スピーカーは、同じ名前でなければペアリングできません。

複数の 120H をペアにする場合は、追加のペアのスピーカーに異なる名前を使用する必要があります。Founder 120H のスピーカーには、ペアリングするスピーカーと一致する限り、14 文字までのカスタム名を付けることができます。

奇数のスピーカーを使用する場合（例えば、1 台をセンターチャンネルとして使用する場合）、以下の手順に従いますが、ペアリングメニューで別の名前に変更して、「右」のスピーカーとペアリングしようにしないでください。

120H のスピーカーをペアリングするには、

1. 両方のスピーカーを AC 電源に接続します
2. ノートパソコンと右側に置いたスピーカーを付属の USB ケーブルで接続します
3. ARC Genesis を開きます
4. 画面左側の「他のツール：」の下にある「ペアリング・ツール」をクリックします
5. 120H スピーカーのアイコンをクリックする
6. ドロップダウンメニューから 「Type」を 「Right」 に設定する
7. 「Apply Changes」をクリックします

測定手順

最低でも5つのリスニングポジションで測定することをお勧めします。

12メートル×12メートル以上の大きな部屋や特殊な形状の部屋であれば、ARCでは10ポジションまで測定することができますが、多ければ多いほど良いというわけではありません。

ポジション1: この「メイン測定位置」は、中央の座席位置（「スイートスポット」）のすぐ前に位置することが望ましい。これは、低音のボリュームレベルを設定するための「メイン測定位置」です。

追加ポジション: すべての追加測定位置は、ポジション1から最低60センチの間隔を空ける必要があります（*Diagram A* 参照）。

ヒント: 「メイン測定位置」が壁に面している場合、追加の測定位置は座席エリアの前にしてください。これらの位置は、壁からの距離がすべて同じにならないように、互いに30センチ以上の距離を変えてください（*Diagram B* 参照）。



Diagram A

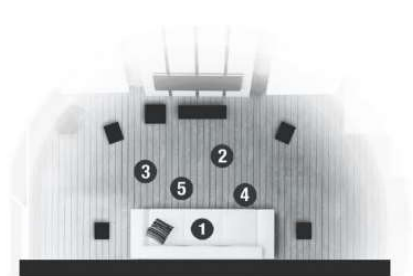


Diagram B

クイック・メジャー・スピーカー・ポジション・ヘルパー

スピーカーの位置が柔軟な場合は、ARCを実行する前にクイックメジャーを使用することができます。

（もしくは、ARC測定から始めて、スピーカーの位置を変更する必要があるかどうかを確認することもできます。） クイック・メジャーを使用するには：

- 「クイック・メジャーの起動」アイコンをクリックします。
- 「接続」をクリックして、測定する機器を選択します。
- 接続が完了したら、「開始」をクリックして、配置しているスピーカーのスイープ音を有効にします。
- 数回のスイープの後、グラフには補正前の測定値のライブ・アップデートが表示されます。これは、オフにするまで継続して実行されます。
- これで、スピーカーを部屋の中で動かして、レスポンスグラフが最もフラットになるタイミングを確認することができます。
- グラフが最も平坦になるスピーカー（特に低音域）を残し、「停止」をクリックしてクイック・メジャー・ウィンドウを閉じ、ARCを通常通り実行してください。

ご注意: 複数のスピーカーを使用している場合は、それぞれのスピーカーに対してこのプロセスを繰り返す必要があります。

ARC の基本的な測定手順

1. マイクを「メイン測定位置」であるポジション 1 にセットした状態で、USB を使ってマイクと ARC 対応機器の両方をコンピューターの USB 入力に接続します。
 2. スタートメニューから ARC を選択して実行します。プログラムの指示に従って、測定の手順を行います。プロセスの最後に、ARC は自動的に部屋の補正データを機器に読み込みます。測定回数にもよりますが、約 10 分で終了します。
 3. パソコンに保存した測定データファイルに名前を付けることができます。測定名には最大 16 文字まで使用できます。追加の文字は削除されます。a-z, A-Z, 0-9, " ", "-", ".", ":", ";", "<", "=", ">", "?", "@ が名前に使用可能な文字および記号です。それ以外のキャラクターは使用できません。
 4. ARC プログラムが終了したら、コンピューターを切断することができます。今後の使用のために、マイクセットを安全に保管してください。
- スピーカーの位置を変えたり、部屋に新しい家具や音を反射するものを入れたり、主なリスニングポジションが変わったりした場合は、再測定が必要になります。

上級者向けの機能

ARC の素晴らしい機能のひとつに、部屋の音響特性をカスタマイズするツールがあります。これは、より高度なユーザーにのみお勧めします。

上級ユーザー向けの最新の説明は、anthemav.com/arc をご覧ください。

スピーカーの接続



重要！ スピーカーを接続する前に、アンプの電源を切ってください。
誤ってスピーカーケーブルをショートさせてしまうと、故障の原因になります。

最適なサウンドを得るためには、高品質のスピーカーケーブルを使用することが不可欠です。
下の表は、さまざまな長さの場合の最小必要ゲージを示しています（推奨事項については販売店にお問い合わせください）。

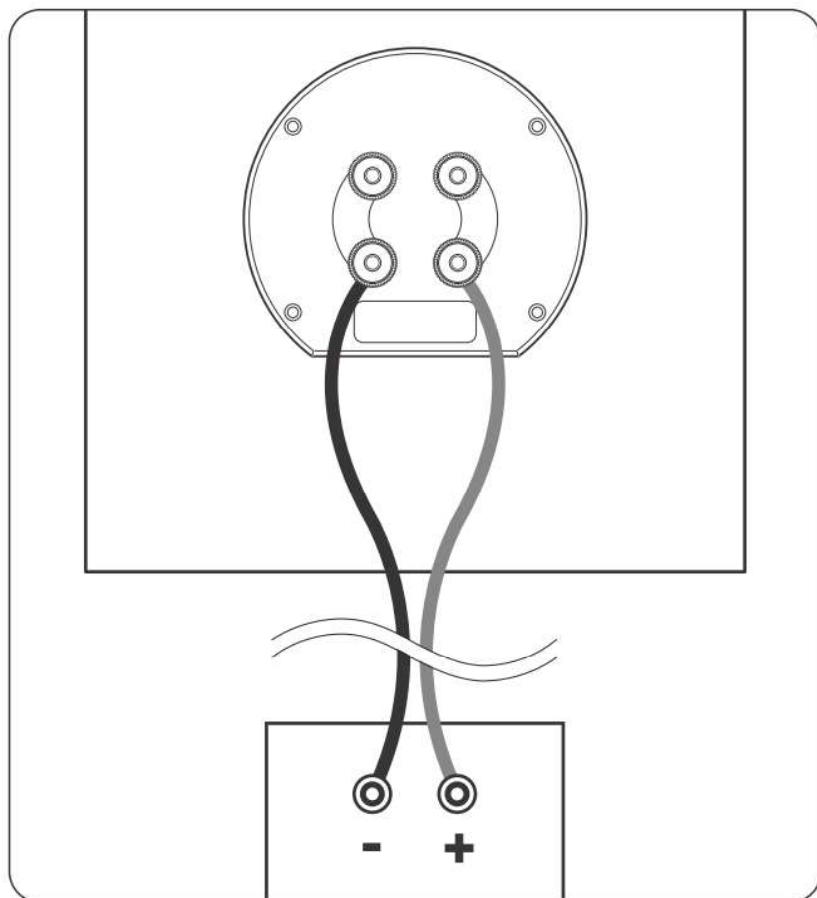
最小ゲージ要件		
ケーブルの長さ	直径	ゲージ
4.5m 未満	1.3 mm	16 awg
9m 未満	1.6 mm	14 awg
9m 以上	2.0 mm	12 awg

スピーカーの標準接続



スピーカーにジャンパーを付けたまま、バイワイヤリングやバイアンプ接続をしないでください。

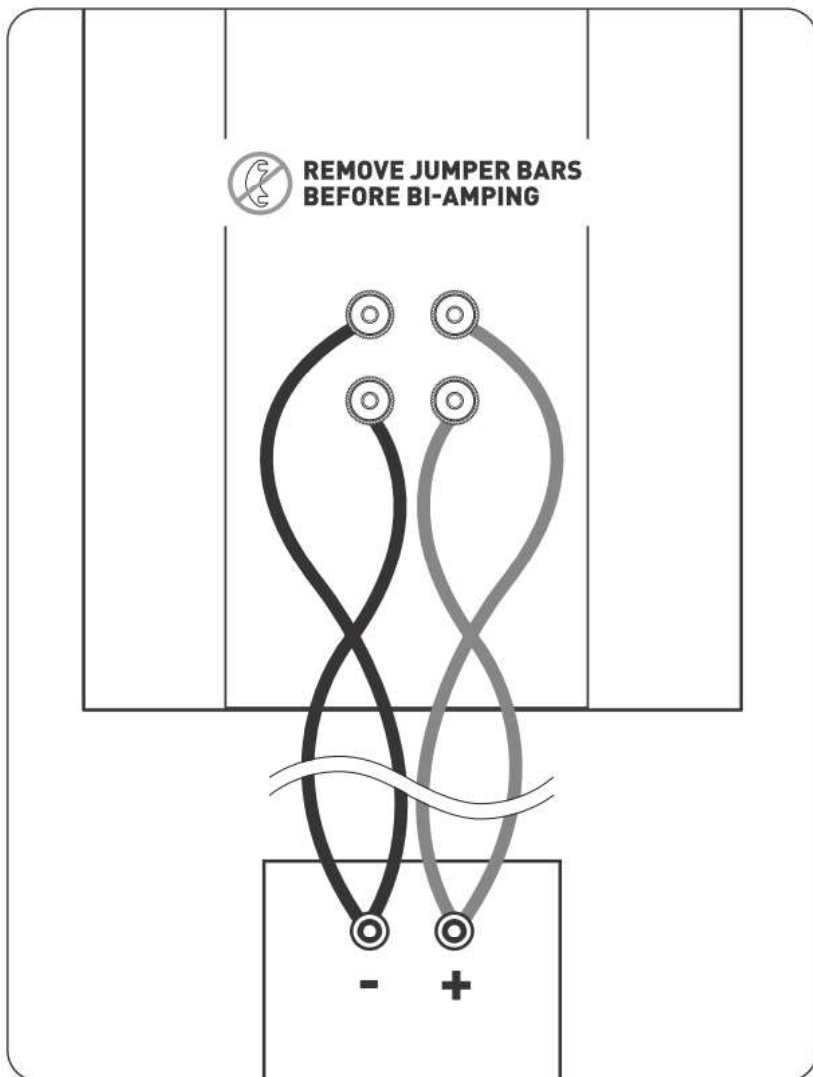
Paradigm Founder スピーカーはすべて、ジャンパーで外部に接続された 2 組の入力端子を備えています。このスピーカーは、バイワイヤリングやバイアンプにすることで、より優れた性能を発揮します。2 つの入力端子を持つスピーカーを標準的に接続する場合は、ジャンパーを付けたまま、どちらかの入力端子を使って接続します。



バイワイヤー接続

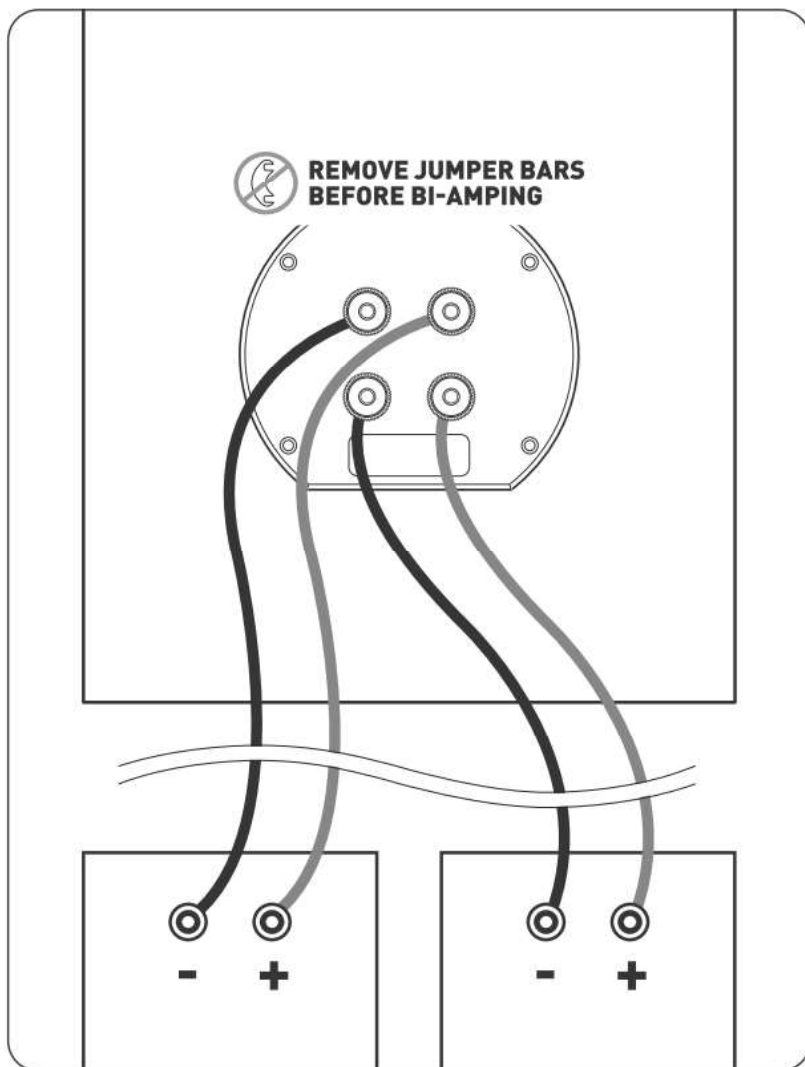
バイワイヤリングを行うことで、きめ細かくクリアで開放的な音と、ソリッドな低音に改善することができます。

バイワイヤリングを行うスピーカー1台につき2本のスピーカーケーブルが必要です。



バイアンプ接続

重要： バイアンプ接続の際は、必ず同じゲインのアンプを使用してください。アンプのゲインが均一でないと、垂直方向のバイアンプ接続ではスピーカー間のバランスが崩れ、水平方向のバイアンプ接続ではスピーカーシステムの周波数バランスが崩れてしまいます。このような問題を防ぐために、同じアンプ（ブランドとモデル）を使用してください。また、同じノンブリッジモードまたはブリッジモードで動作していることを確認してください。



パッシブ・バイアンプでは、透明感、開放感、ディテールが劇的に改善され、低音の立体感や明瞭度も格段に向上します。音楽や映画のサウンドトラックの表現が、より分かりやすく、より透明になります。パッシブ・バイアンプでは、スピーカー内部のパッシブ・クロスオーバーが接続されたままになります。外付けの電子クロスオーバーは必要なく、使用することもできません（個々のドライブユニットに直接電気的なアクセスができないため）。これにより、費用やセットアップの手間を省くことができます。パッシブ・バイアンプは、スピーカーを最適化し、最高のハイエンド性能を実現します。バイアンプ化には、2台のパワーアンプが必要です。接続はバーチカルまたは水平のいずれかです。

水平バイアンプ接続

水平バイアンプ（前ページ参照）は、1台のアンプをスピーカーの中低域の入力に、もう1台を高域の入力に割り当てる方法です。この構成では、大音量で聴いたときの明瞭度を維持することができます。低域の要求によってアンプがクリップしても、高域ドライバーに歪みがおよぶのを防ぐことができます。

バーチカルバイアンプ接続

バーチカルバイアンプは、各スピーカーに1台のアンプを割り当てます。この構成では、チャンネルが完全に分離されるため、システムのイメージング能力が最大限に発揮されます。

ファインチューニング

スピーカーを部屋に配置し、A/VプロセッサやA/Vレシーバーを使ってスピーカーの距離を設定し、スピーカーレベルを調整したら、今度は微調整を行います。

この取扱説明書の指示に従って、スピーカーを部屋に配置し、A/VプロセッサまたはA/Vレシーバーでスピーカーの距離とスピーカーレベルのキャリブレーションを設定したら、少しでも微調整をしてみましょう。

Paradigm Founderスピーカーは、様々な部屋でハイエンドのパフォーマンスを発揮するように設計されているので、必要に応じて部屋の中での配置を少しずつ調整するだけで、微調整が可能です。

まずはフロントスピーカーだけで、身近な音楽をステレオで聴いてみましょう。音場の広さと深さを感じられますが、内振り（スピーカーをリスニングエリアに向ける量）を調整することで、好みの音場にすることができます。内振りを大きくすると音像の奥行きや定位感が増し、小さくすると音像の広がりが増します。好みの音場バランスになるまで、少しずつ調整し、その都度試聴してください。

マルチチャンネル・システムの他のスピーカーは位置と音の分布パターンが固定されているため、内振りは適用されません。

センターチャンネルの微調整は、音楽や映画などのマルチチャンネル番組で必要となるレベル調整を行うだけです。また、必要に応じてA/VプロセッサやA/Vレシーバーのレベルを調整し、全体的な音の広がりを確保します。

サブウーファースの微調整については、サブウーファースに同梱されている取扱説明書をご参照ください。

基本的なトラブルシューティング



警告： 本製品を開けないでください。Paradigm の正規販売店以外での修理は保証対象外となりますので、絶対に行わないでください。詳しくは、日本国内総代理店の株式会社PDNにお問い合わせください。

問題が発生した場合は、以下のトラブルシューティングをお試しください。これらを試しても問題が解決しない場合や、どのようにしたらよいかわからない場合は、カスタマーサポートにご連絡ください。

カスタマーサポート

ウェブサイトはこちらから：<https://pdn.co.jp/support.html>

メールでのお問い合わせは：<https://pdn.co.jp/contact.html>

問題	解決策
音が出ない	<ul style="list-style-type: none">・ レシーバー、プリアンプ、パワーアンプが接続されており、電源が入っているか確認する。・ 壁面のコンセントに導通があるか確認する。・ ヘッドフォンが接続されていないか、またはミュートになっていないか確認する。・ すべての接続を再確認する。
一方、もしくは複数のスピーカーから音が出ない	<ul style="list-style-type: none">・ バランスコントロールを確認する。・ すべての電源ケーブルがしっかりと差し込まれ、不具合がないか確認する。
低音の不足、または音像定位が乱れる	<ul style="list-style-type: none">・ (1本または複数の) スピーカーが逆位相で接続されている (極性が逆になっている)。・ 各スピーカーのケーブルが正しい極性 (赤 (+) から赤 (+)、黒 (-) から黒 (-)) で接続されていることを再確認する。

	Founder 120H	Founder 100F
構成	3ウェイ・5ドライバー ハイブリッド・パスレフ型 ARC Genesis 対応	3ウェイ・5ドライバー パスレフ型
内蔵パワーアンプ	DSP制御 1000W RMS 2000W ダイナミックピーク	N/A
高域ドライバー	扁球ウェーブガイド (OSW™) & PPA™レンズ付き25mm AL- MAC™セラミックドーム型	扁球ウェーブガイド (OSW™) & PPA™レンズ付き25mm AL- MAC™セラミックドーム型
中域ドライバー	PPA™レンズ付き152mm AL- MAG™コーン型	PPA™レンズ付き152mm AL- MAG™コーン型
中低域ドライバー	N/A	N/A
低域ドライバー	ART™エッジ・超ロングスト ローク 215mmCARBON-X™ ユニボディ・コーン型 x 3	ART™エッジ・超ロングスト ローク 177mmCARBON-X™ ユニボディ・コーン型 x 3
パッシブブラジエーター	N/A	N/A
周波数特性 (軸上 ±2dB)	22Hz - 23kHz	42Hz - 23kHz
周波数特性 (軸外30°±2dB)	22 Hz - 20 kHz	42 Hz - 20 kHz
最低周波数*	18 Hz (DIN)	26 Hz (DIN)
感度	95dB	93dB
クロスオーバー周波数	2.4kHz / 300Hz	2.1kHz / 500Hz
推奨アンプ出力	15 - 400 W	15 - 350 W
最大入力**	300 W	250 W
インピーダンス	8 Ω	8 Ω
質量	41.7kg	32.7kg
外形寸法 (HxWxD)	115.3cm x 35.4cm x 44.1cm	106.5cm x 32.8cm x 40.9cm
仕上げ	ピアノブラック ブラックウォルナット ミッドナイトチェリー ウォルナット	ピアノブラック ブラックウォルナット ミッドナイトチェリー ウォルナット

Founder 80F	Founder 90C	Founder 70LCR
2.5ウェイ・4ドライバー バスレフ型	3ウェイ・4ドライバー・2パッ シブラジエーター・密閉型	3ウェイ・4ドライバー 密閉型
N/A	N/A	N/A
扁球ウェーブガイド (OSW™) & PPA™レンズ付き25mm AL- MAC™セラミックドーム型	扁球ウェーブガイド (OSW™) & PPA™レンズ付き同軸25mm AL-MAC™セラミックドーム型	扁球ウェーブガイド (OSW™) & PPA™レンズ付き同軸25mm AL-MAC™セラミックドーム型
N/A	同軸152mm AL-MAG™コーン型	同軸152mm AL-MAG™コーン型
PPA™レンズ&ART™エッジ 超ロングストローク140mm AL- MAG™コーン型	N/A	N/A
ART™エッジ・超ロングスト ローク 152mmCARBON-X™ ユニボディ・コーン型 x 2	ART™エッジ・超ロングスト ローク 177mmCARBON-X™ ユニボディ・コーン型 x 2	ART™エッジ・超ロングスト ローク 127mmCARBON-X™ ユニボディ・コーン型 x 2
N/A	ART™エッジ・超ロングスト ローク 177mmCARBON-X™ ユニボディ・コーン型 x 2	N/A
50Hz - 23kHz	55Hz - 23kHz	79Hz - 23kHz
50 Hz - 20 kHz	55 Hz - 17 kHz	79 Hz - 17 kHz
28 Hz (DIN)	37 Hz (DIN)	47 Hz (DIN)
93dB	94dB	92dB
1.8kHz / 500Hz	2.5kHz / 500Hz	2.2kHz / 700Hz
15 - 220 W	15 - 260 W	15 - 220 W
180 W	200 W	150 W
8 Ω	8 Ω	8 Ω
23.6kg	21.8kg	13.6kg
97.1cm x 29.8cm x 35.6cm	22.6cm x 90.8cm x 32.7cm	20.4cm x 48cm x 31.2cm
ピアノブラック ブラックウォルナット ミッドナイトチェリー ウォルナット	ピアノブラック ブラックウォルナット ミッドナイトチェリー ウォルナット	ピアノブラック ブラックウォルナット ミッドナイトチェリー ウォルナット

Founder 40B	
構成	2ウェイ・2ドライバー バスレフ型
内蔵パワーアンプ	N/A
高域ドライバー	扁球ウェーブガイド (OSW™) & PPA™レンズ付き25mm AL- MAC™セラミックドーム型
中域ドライバー	N/A
中低域ドライバー	PPA™レンズ&ART™エッジ 超ロングストローク152mm AL- MAG™コーン型
低域ドライバー	N/A
パッシブラジエーター	N/A
周波数特性 (軸上 ±2dB)	79Hz - 23kHz
周波数特性 (軸外30°±2dB)	69 Hz - 20 kHz
最低周波数*	41 Hz (DIN)
感度	92dB
クロスオーバー周波数	1.6kHz
推奨アンプ出力	15 - 150 W
最大入力**	120 W
インピーダンス	8 Ω
質量	11.3kg
外形寸法 (HxWxD)	36.8cm x 19.7cm x 32cm
仕上げ	ピアノブラック ブラックウォルナット ミッドナイトチェリー ウォルナット

* DIN 45 500。一般的なリスニングルームでの-3dB を示します。

** 典型的なプログラムソースでは、アンプのクリップが10%以下であることが条件です。
外形寸法の奥行きは、スピーカー端子/プレートの2.9cmを含みます。

保証について

このマニュアルに記載されている Paradigm® Founder スピーカーは、最初の購入日から 5 年間、製造上の欠陥や材料上の欠陥がないことを保証します。

指定された期間内に、製造および/または材料の欠陥が生じた場合は、最初の所有者に対して、部品の修理、交換、調整は無料で行われます。

誤使用による故障または損傷は、パラダイム保証の対象外です。

制限事項：

- 保証は、正規のパラダイム販売店で購入された製品に限定され、その適用は、最初の小売購入日から開始されます。保証の権利は譲渡できません。
- 保証は、通常のご家庭での使用に限り適用されます。製品が次の項に記載する条件のいずれかにあてはまる場合、保証は適用されません。
- 製品が業務用または商用で使用される場合、保証は適用されません。

次のいずれの場合も、保証は無効となります：

- 製品が（故意または過失で）誤用された。
- 製品が不適切または故障した機器と組み合わせて使用された場合。
- 製品に損傷を引き起こす信号が入力された、輸送中の損傷、機械的な損傷、異常な状態にさらされた。
- 製品（キャビネットを含む）が非正規のサービス施設によって改造または破損されている。
- シリアル番号が削除または改ざんされている。

所有者の責任：

- 標準的/合理的な操作上のケアとメンテナンスを行う。
- サービスセンターへの輸送費を負担する。
- 購入証明を提示する（認定パラダイムディーラーからの購入時に提供される領収書等は、購入日証明のため保管する必要があります）。

修理が必要な場合は、最寄りの公認のパラダイムディーラー、または輸入代理店である PDN に連絡して、故障品を持ち込み、または元払いで発送してください。詳細については、PDN のウェブサイト <https://pdn.co.jp> をご覧ください。

Paradigm Electronics Inc.は、以前に製造された製品を変更する義務を負うことなく、製品のデザインを改良する権利を留保します。

本保証は、商品性、特定目的への適合性について、明示または暗示されている、その他のすべての保証の代わるものであり、誰によっても拡大することはできません。

Paradigm Electronics Inc.、その代理店または販売代理店は、いかなる場合においても、付随的または間接的な損害に対して責任を負いません。司法管轄区により、付随的または間接的な損害の制限を認めていないため、この除外がお客様に適用されない場合があります。

保証期間の証明と購入証明のために、このマニュアルと領収書等を大切に保管してください。



株式会社PDN

〒240-0005

神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町134番地
横浜ビジネスパーク ノーススクエア 1-4階